

森林作業体験活動の受入れについて

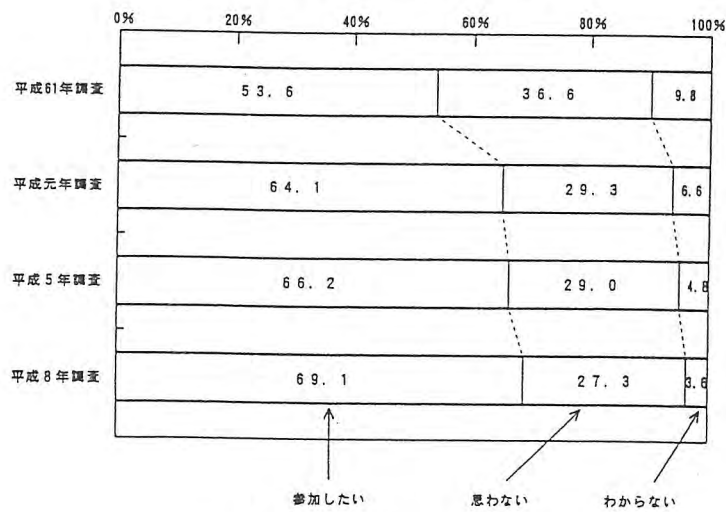
真室川営林署業務課 ○吉田正人
総務課 川越 修

1. はじめに

近年、一般市民の森林への関心はかつてないほどの高まりをみせているといわれており、このような中で、市民の間に森林づくりに自ら参加したいという意識が高まりつつあります。

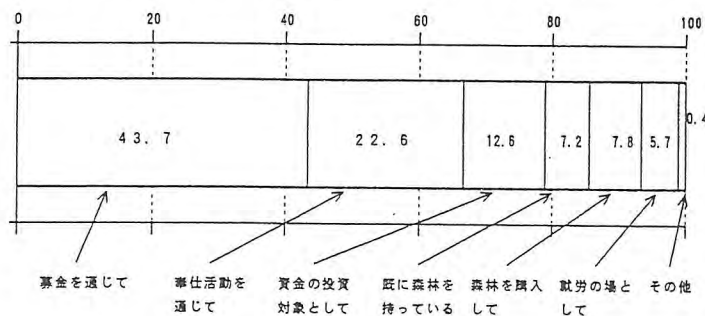
総理府の平成8年の世論調査によると、何らかの形で森林づくりに参加したいと答えた人は全体の69.1%で、その割合も昭和61年以降、年を追うごとに上昇しています。また、森林づくりに参加したいと答えた人が挙げた手法は「緑の募金などの募金を通じて」が43.7%、「ボランティアなど奉仕活動を通じて」が22.6%、「分収育林など資金の投資対象として」が12.6%となっています。

◎森林づくりへの参加の意向



資料：総理府「森林・林業に関する世論調査（平成8年）」

◎森林づくりに参加したいと答えた人が挙げた手法



資料：総理府「森林・林業に関する世論調査（平成8年）」

このように、現在森林づくりに自ら参加したいと考える人々のボランティア活動による森林整備の取組みが全国各地で展開されるようになってきています。

真室川営林署ではこのような「森林への関心の高まりと森林ボランティア活動の全国的な広がり」を背景として、次世代を担う若き大学生を対象に、実際の森林作業体験をとおして、少しでも森林づくりの大切さ、大変さを知ってもらい、その経験が、森林・林業に対する理解と関心を深め、さらには、今後本格的な森林ボランティア活動への参加の一つの契機となることを期待して、山形大学の1年生によるボランティア活動的な要素を含む森林作業体験の受入れを実施しました。

2. 「森林作業体験ボランティア合宿」の実施

「森林作業体験ボランティア合宿」と名付けて実施したその取組みの概略と日程は以下のとおりです。

◎「森林作業体験ボランティア合宿」の実施内容（概略）

1. 日 時	(前半) 平成9年7月16日(水)～7月18日(金) (後半) 平成9年7月22日(火)～7月24日(木)
2. 参加者	山形大学1年生(農学部藤原教授「森林保全の科学」受講者) 前半20名(学部:人文,教育,理,医,工,農) 後半18名(学部:人文,医,工,農)
3. 体験場所	真室川営林署管内の国有林 前森山人工林施業モデル団地内(真室川町)
4. 体験作業	下刈り, つる切り
5. 講 演	(前半) 金山町長 岸宏一氏 「金山スギと町づくり」 (後半) 山形県緑を育てる女性の会代表世話人 柿崎ヤス子氏 「これからの農山村」
6. 宿泊場所	金山町林業センター(朝昼晩三食自炊)
7. 作業指導体制	学生を各班5名ずつの計4班に分け, 各班に及位森林事務所の基幹作業職員1名ずつを配置し, 作業指導に当たった。

参加者は教養課程の講義で農学部の藤原教授の「森林保全の科学」を選択した学生で、森林への関心が比較的高い学生ということがいえます。

学部別の参加者は、人文学部2名、教育学部1名、理学部2名、医学部4名、工学部4名、農学部25名と農学部の学生が多かったですが、色々な学部の学生の参加を得ることができました。また、男女別では男性が23名、女性が15名で、出身地は北は北海道から南は九州まで全国各地からとなりました。

また、2日目の夜に、前半は金山町長の岸宏一氏に、また後半は山形県緑を育てる女性の会代表世話人の柿崎ヤス子氏による講演をお願いしました。

なお、作業の安全指導は、刃物の扱い方やハチの危険性などを中心に、特に入念に行いました。また、参加者のほとんどが未成年のため、参加に際して保護者の同意書を提出してもらうとともに、各自傷害保険に加入してもらいました。

作業に当たっては、夏の暑い炎天下での作業であり、また初めての作業でもあるため、こまめに休憩をとって行いました。

◎「森林作業体験ボランティア合宿」日程表

日 程 と 内 容		
第1日目	PM	<ul style="list-style-type: none"> ・新庄駅集合 ・金山町林業センターにてオリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ①営林署長あいさつ ②参加者の紹介 ③スタッフ紹介 ④日程、班分け、作業場所の説明 ⑤緊急時の連絡体制、安全指導 ⑥作業の説明
	夜	<ul style="list-style-type: none"> ・食事 入浴
第2日目	AM	<ul style="list-style-type: none"> ・前森山団地にて「下刈作業」
	PM	
	夜	<ul style="list-style-type: none"> ・食事 入浴 ・講演 (前半) 金山町長 岸宏一氏 「金山スギと町づくり」 (後半) 山形県緑を育てる女性の会代表世話人 柿崎ヤス子氏 「これからの農山村」 ・懇親会
第3日目	AM	<ul style="list-style-type: none"> ・前森山団地にて「つる切作業」
	PM	<ul style="list-style-type: none"> ・解散式 <ul style="list-style-type: none"> ①アンケート ②討論会 ・新庄駅解散

3. アンケート結果の分析

合宿の最終日の解散式において、参加者に簡単なアンケートをお願いしました。その結果の概要は以下のとおりです。

◎アンケート結果の概要

(アンケート回答者 男性 22名 女性 15名 計 37名)

Q 1 過去にこのような森林作業体験に参加されたことはありますか。

はい 4名 →
いいえ 33名

・高校の実習 3名
・中学での枝打ち体験 1名

Q 2 今後このような森林作業体験の企画があれば参加したいですか。

はい 30名 →
いいえ 7名

(主なコメント)
・より多くの仲間に参加してもらいたい。
・一般になじみが薄いため十分な広報が必要。
・仕事は大変だが達成感が何ともいえない。

(主なコメント)
・作業がきつくととても大変な仕事。
・作業そのものが自分には危険に思えた。

Q 3 今回の森林作業体験で良かったこと、また改善すべきことをお聞かせ下さい。

(良かったこと) ・作業指導者が親切で、かつ少人数に作業指導者がついて指導に当たってくれたこと。
・小刻みに休憩があり作業がしやすかった。
・共同生活(自炊?)が楽しかった。 など

(改善すべきこと) ・作業現場までの距離が遠かった。
・暑い時期なので朝夕の涼しい時間帯に集中して作業したほうが良いのではないかなど

Q 4 森林・林業に対する考え方が今回の森林作業体験を通じて変わりましたか

・木を育てるには大変な作業が必要だということは本や話だけでは分からない。改めて木を育てる大変さを実感した。
・今まで、「木を伐ることがそのまま環境破壊につながる。」というようなイメージを抱いていたが、今はとにかくそれを恥じたい。 など

この中の二つ目の質問で、「今後このような森林作業体験の企画があれば参加したいか。」との問に対して、約8割の30名の方が「また参加したい。」と答えており、このことは、受入側である営林署として、当初期待した効果が十分現れたものと喜んでいるところだ。

また、3番目の質問「今回の森林作業体験で良かったこと、また改善すべきことをお聞かせ下さい。」に対する回答をみると、全体をとおして、今回の体験は良かった、との評価を得たように感じています。

4. 効果と今後の課題

今回の取組みを総括したものが次表です。結果として、参加した学生にとっても、また受入側である営林署の職員にとっても、大きな効果があったものと考えています。

また、今後の展開としては、将来的にもっと幅広く、一般市民の参加を得た森林ボランティア活動に発展させていきたいと考えているところです。

◎効果と今後の課題

効 果
<ul style="list-style-type: none">○ 参加した学生のほとんどが「今後もこのような森林作業体験の機会があれば参加したい。」とっており、森林・林業の若き良き理解者・支援者を増やすことができたこと。○ 参加した学生の多くが今回の森林作業体験によって、「森林・林業に対する考え方が変わった。」とっており、今回の体験を非常に有益で貴重なものだったと受け止めてもらえたこと。○ 営林署全体で取り組むことができ、作業指導に当たった及位森林事務所の基幹作業職員も「来年度も是非実施して欲しい。」というなど職員も楽しみながら参加できたこと。
今後の課題・展開
<ul style="list-style-type: none">○ 2泊3日の日程では少し慌ただしさがあったため、今後実施する場合は3泊4日程度の日程にする必要がある。○ 来年度は山形大学農学部の学生を対象に実施する予定であるが、将来的には広く一般市民の参加を募った森林ボランティア活動に発展させていきたい。

5. おわりに

今回の取組みが実現でき、かつ無事に終えられたのも、ひとえに学生達をまとめて下さいました山形大学農学部の藤原教授のお陰です。先生には改めて感謝の意を表したいと思います。

体験合宿終了後しばらくして学生達の今回の体験の感想をまとめた感想文集が届きました。私達受入側への感謝の気持ちとして送られたものですが、私達にとっては何物にも代え難い良い思い出の品となっています。

さて、林政審議会の最終答申における国有林の抜本改革の基本的考え方は、「国有林を名実ともに「国民の森林」とすべき。」です。今回のような取組みを通じて、今後ますます、広く国民に開かれた、国民参加による国有林づくりを進めていかなければならないと強く感じているところです。